

# ローヤルルマニユース

No.161

発行 ローヤル油機株式会社 2007年8月24日

〒979-0202 福島県いわき市四倉町上仁井田字家ノ前 107-4 TEL.0246-32-6657 FAX.0246-32-6658

Eメールアドレス GSP00013@nifty.com

HPアドレス <http://homepage1.nifty.com/loyal/>

## 残暑お見舞い申し上げます。

### 【自動給油機 パーマクラシック】 ドイツ製

- 特徴：高所や水中等の給油が困難な箇所に自動給油。
  - S F - 0 1 型 標準グリース (使用温度： - 25 ~ 130 )
  - S F - 0 2 型 重荷重グリース ( MoS2 含有 )
  - S F - 0 5 型 耐熱グリース ( MoS2 含有 )
  - S O - 3 2 型 標準オイル(ISO VG32)オイルの自動給油
- 種類：パーマ1 (1ヶ月：黄) パーマ3 (3ヶ月：緑)  
パーマ6 (6ヶ月：赤) パーマ12 (12ヶ月：灰)



### 『三畳一間の下宿』

高崎物語 3

大学から紹介された最初の下宿は、三畳一間・二食付きで四千円だった。当時、学生食堂の定食が四十五円、カレライスが五十円の時代だったから妥当な値段だった。大学には、自転車で二十分ほどの距離だったし、市街地にも近かった。この下宿に決めた。

下宿の家族は、上州名物“かかあ天下”から“風”を地で行くような元氣な奥さんと物静かな旦那さん、それに小学校に通う二人の子供さんがいた。

裏の玄関口から階段を上がると廊下があり、右手に二部屋あつて奥の部屋には滋賀県出身の高崎さんがいた。三年生で、大学が休みの日はほとんど榛名湖畔のボート屋でアルバイトをしていた。そのためか肌の色も黒く、身体も引き締まって頑丈そうな体型をしていた。

左手の奥には、静岡県出身の高田さんがいた。高田さんは、高崎さんとは対照的に色白で一見なよなよしてみえたが、努力家でもいつまで夜遅くまで勉強していた。アルバイトも中学生の家庭教師をしていた。二人の先輩ともやさしく、入学したばかりのわたしに何くれと面倒を見てくれ、とても助かったことを記憶している。

わたしの部屋は、高田さんの手前で畳三枚、南側の廊下とガラス戸で仕切られ西側に小窓がひとつあるだけの真にシンプルなものだった。小窓からは、はるかにそびえる榛名富士の優美な姿を見ることが出来た。

ある晩、ゴーゴーという地響きの音で目を覚ました。小窓を開けて下を覗くと、迷彩色に塗装された戦車やら軍用トラックが、群れを成して何十台も通りすぎて行った。高田さんが、「あれは、榛名山の麓にある米軍の演習場に向かって行くのさ」と。昭和三十五年のことだった。

### あとがき

どうも私のいびきは、人並み以上だそう。お陰で、口で呼吸をするから決まって喉をやられる。喉の炎症から発熱、風邪と進行する。先日、これを見かねた妻が友人から聞いてきた。いびきに効く“枕”。

デンマーク製で、大きな山と小さな山ありなかなか快適？ 友人から電話があり「あの枕、冬も首筋が暖かくていいのよ」「うん？もしかして大きい方を下に」「当たり前じゃないの」正常は、より快適です。